

# 保険・年金 フォーカス

## ドイツの生命保険監督を巡る動向(2)

### ーBaFin の 2023 年 Annual Report や GDV の公表資料からの抜粋報告 (生命保険会社等の監督及び業績等の状況)ー

客員研究員 中村 亮一  
E-mail : [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

## 1ーはじめに

[前回のレポート](#)では、ドイツの保険監督官庁である BaFin (Bundesanstalt für Finanzdienstleistungsaufsicht : 連邦金融監督庁) の 2023 年の Annual Report(Jahresbericht)<sup>1</sup>の「スポットライト (Spotlights)」の章等に記載されている項目の中から、主として生命保険の監督に関連するトピックの内容を抜粋して、それらのトピックに関する状況について報告した。

今回のレポートでは、Annual Report の「I. スポットライト」の「2-1. リスク分類と(その他の) 検査」及び「II. 企業の監督」の「2. 保険会社及び年金基金」等、及び GDV (ドイツ保険協会) の公表資料等に基づいて、ドイツの生命保険会社等の監督及び業績等の状況について報告する。なお、以下の図表は、BaFin の Annual Report や GDV の公表資料からの図表に基づいて、筆者が作成している。

## 2ー保険会社のリスク分類と検査結果

BaFin の Annual Report の「I. スポットライト」の「2-1. リスク分類と(その他の) 検査」における記述に基づくと、以下の通りとなっている。

### 1 | 保険会社のリスク分類

BaFin は、監督下にある保険会社と年金基金をリスククラスに分類している。これは比例監督とリスクベースの監督の基礎となるものである。

これらの会社について、以下の図表が、2023 年のリスク分類の結果を示している(図表番号は、出典資料に従っている、以下同様)。

分類において、BaFin は会社又はグループの質を考慮に入れており、これは、「財務状況とキャッシ

<sup>1</sup> [https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/Jahresbericht/jahresbericht\\_node\\_en.html](https://www.bafin.de/EN/PublikationenDaten/Jahresbericht/jahresbericht_node_en.html)

ュフロー」、「財務業績」、「ガバナンス体制」、「将来の実行可能性」及び「重要な持株の保有者」の要素に基づいている。一方、監督は、各会社のソルベンシー又は流動性危機が金融セクターの安定性に及ぼす潜在的な影響を考慮に入れている。

グループの評価において、BaFin は「重要な持株の保有者」の代わりに「グループ固有の要素」というサブセクションを使用し、特定の企業の分類結果だけでなく、定性的及び定量的なグループ固有の情報も提供している。

評価システムは、個々の基準に対する評価を合計して、「A（高品質）」から「D（低品質）」からなる 4 段階の総合評価を作成している。

## 2 | リスク分類の結果

2023 年 12 月 31 日時点のデータに基づく評価は、以下の通りとなっている。

BaFin は、2023 年のリスク分類で、保険会社の約 76%を、質の高い「A」又は「B」に分類しており、これは 2022 年の約 75%に比べて、若干上昇した数値となっている。

表 4：2023 年と 2022 年の保険会社と年金基金のリスク分類結果

|           |       | 会社の質 |      |       |       |       |       |      |      |        |        |
|-----------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|--------|--------|
| 対象会社の割合   |       | A    |      | B     |       | C     |       | D    |      | 合計     |        |
|           |       | 2023 | 2022 | 2023  | 2022  | 2023  | 2022  | 2023 | 2022 | 2023   | 2022   |
| 金融安定性への影響 | 非常に高い | 0,00 | 0,00 | 2,70  | 2,10  | 1,60  | 2,10  | 0,00 | 0,00 | 4,30   | 4,20   |
|           | 高い    | 1,20 | 1,50 | 7,80  | 7,70  | 4,10  | 3,70  | 0,00 | 0,00 | 13,10  | 12,90  |
|           | ミディアム | 3,10 | 2,90 | 20,30 | 17,80 | 5,80  | 6,80  | 0,00 | 0,20 | 29,20  | 27,70  |
|           | 低い    | 4,90 | 5,40 | 36,10 | 37,30 | 11,30 | 11,40 | 1,10 | 1,10 | 53,40  | 55,20  |
|           | 合計    | 9,20 | 9,80 | 66,90 | 64,90 | 22,80 | 24,00 | 1,10 | 1,30 | 100,00 | 100,00 |

(出典) BaFin 「2023 Jahresbericht」

また、保険グループのリスク分類は、2023 年に「A」（1.8%）、「B」（78.6%）又は「C」（19.6%）（2022 年は、「A」（1.9%）、「B」（79.6%）又は「C」（18.5%））となっている。

## 3 | 保険会社の検査

BaFin は、保険監督における検査計画についても、リスクベースのアプローチを採用しているが、リスク分類の結果に加え、特に、監督対象会社で検査が最後に実施された時期を考慮している。さらに、例えば IT に関する検査など、アドホックな検査やトピックに関連した検査を実施している。

2023 年、BaFin は保険監督分野の会社に対して、合計 72 件の検査を実施している（2022 年は 75 件）が、そのリスククラス別の検査の内訳は、以下の図表の通りとなっている。

表 5：2023 年と 2022 年の保険会社及び年金基金に対する検査（リスククラス別）

|            |       | 会社の質 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |      |
|------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 検査会社数とその割合 |       | A    |      | B    |      | C    |      | D    |      | 合計   |      | 会社の割合 |      |
|            |       | 2023 | 2022 | 2023 | 2022 | 2023 | 2022 | 2023 | 2022 | 2023 | 2022 | 2023  | 2022 |
| 金融安定性への影響  | 非常に高い | 0    | 0    | 4    | 5    | 4    | 1    | 0    | 0    | 8    | 6    | 11,3  | 8,2  |
|            | 高い    | 0    | 3    | 5    | 6    | 2    | 4    | 0    | 0    | 7    | 13   | 9,9   | 17,8 |
|            | ミディアム | 2    | 0    | 15   | 13   | 7    | 9    | 0    | 0    | 24   | 22   | 33,8  | 30,1 |
|            | 低い    | 2    | 3    | 26   | 23   | 4    | 6    | 0    | 0    | 32   | 32   | 45,1  | 43,9 |
|            | 合計    | 4    | 6    | 50   | 47   | 17   | 20   | 0    | 0    | 71*  | 73** | 100   | 100  |
| 対象会社の割合    |       | 5,6  | 8,2  | 70,4 | 64,4 | 23,9 | 27,4 | 0    | 0    | 100  | 100  |       |      |

\* さらに、分類のない会社で1件の監査が行われ、合計72件の監査が行われた。

\*\* さらに、分類のない企業に対する審査が2件行われ、合計で75件の審査が行われた。

（出典） BaFin 「2023 Jahresbericht」

### 3—保険会社と年金基金の監督に対する BaFin の具体的な対応

BaFin の Annual Report の「II. 企業の監督」の「2. 保険会社及び年金基金」等における記述に基づくと、BaFin は、2023 年において、以下のような新たな監督実務の原則等の公表や監督上の対応を行っている。

#### 1 | 監督実務の原則等の公表

##### 1. 事業行動監督に関するガイダンス通知

2023 年 5 月、BaFin は、資本形成型の生命保険商品（養老保険契約）の事業行動監督の側面に関するガイダンス通知 01/2023 (VA) <sup>2</sup>を公表<sup>3</sup>したが、これにより、とりわけ、資本形成型の生命保険契約が顧客に金額に見合った適切な価値を提供することを確実にし、これらの商品の販売における不適切なインセンティブを回避すること、を目指している。このガイダンス通知は、保険販売指令 (IDD) の規定に基づいている。

BaFin は、事業行動監督において、リスクベースのアプローチ<sup>4</sup>を追求しており、保険会社がガイダンス通知を考慮に入れているかどうかをチェックする。その過程では、主に、収益の大幅な減少や、特に多額の新たな契約手数料という形で、保険仲介業者に対しての著しく高い費用を伴っている商品を提供する保険会社に焦点を当てている。その後、BaFin は、顧客の利益のために欠点が是正されるよう

<sup>2</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Merkblatt/VA/mb\\_01\\_2023\\_wohlverhaltensaufsichtliche\\_aspekte\\_va.html;jsessionid=8E025DC06F24674362615938BD8077F2.internet002](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Merkblatt/VA/mb_01_2023_wohlverhaltensaufsichtliche_aspekte_va.html;jsessionid=8E025DC06F24674362615938BD8077F2.internet002)

<sup>3</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Pressemitteilung/2023/pm\\_2023\\_05\\_08\\_Merkblatt\\_kapitalbildende\\_LV.html;jsessionid=4B1A1B5612519BB024116B10F3E1FCD1.internet002](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Pressemitteilung/2023/pm_2023_05_08_Merkblatt_kapitalbildende_LV.html;jsessionid=4B1A1B5612519BB024116B10F3E1FCD1.internet002)

<sup>4</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Anlage/dl\\_Anlage\\_risikoorientierter\\_aufsichtsansatz\\_va.html;jsessionid=0C29D827C80AA9C3ED6D3D948186B194.internet001](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Anlage/dl_Anlage_risikoorientierter_aufsichtsansatz_va.html;jsessionid=0C29D827C80AA9C3ED6D3D948186B194.internet001)

に、これらの保険会社と協議する。

## 2. 適合性と適正性（資質）要件（fit and proper 要件）に関する通達

2023 年 12 月、BaFin は保険監督法（ISA）に基づき、適合性と適正性（資質）要件に関する三つの通達を発行したが、これらの通達は、取締役会<sup>5</sup>、取締役会・監督機関のメンバー<sup>6</sup>、及び主要な職務遂行者<sup>7</sup>に関係している。

これらの通達は、2018 年の同名のガイダンス通知に基づいており、BaFin はこれを更新し、さらに強化した。とりわけ、企業は現在、取締役会及び主要な職務のポジションについて具体的な要件プロフィールを定めなければならない、また、候補者がそれぞれのポジションに適している理由を説明しなければならない。

## 3. BaFin と IHK による団体保険契約の仲介者の地位に関する監督声明

2023 年 7 月、BaFin は仲介監督を担当する商工会議所（IHK）と共同で、2022 年 9 月 29 日の欧州司法裁判所（ECJ）の判決（C-633/20）の影響に関する監督声明<sup>8</sup>を公表した。この判決は、団体保険契約における保険契約者の仲介者としての地位に関するものであったが、監督声明は、保険契約者が保険仲介者でもある場合について、実務的に規定している。

### 2 | 監督上の対応

#### 1. BaFin は投資ファンドと特別投資ファンドへの投資を分析

2023 年、BaFin はリスクベースの観点から厳選された会社がプライベートデット、プライベートエクイティ、モーゲージローンという資産クラスをどのように扱っているかを分析した。また、不動産プロジェクト・ファイナンスとインフラプロジェクトへの投資についても調査した。保険会社はこうした投資の大部分を、ファンドを通じて間接的に行い、通常は専門のファンドマネージャーを利用している。分析の結果、保険会社は一般的にこれらの資産クラスの特定のリスクを正しく評価していることが判明した。

さらに、BaFin は特定の会社における特別投資ファンドへの間接投資に関連するリスクを調査し、報告とリスク管理の透明性の問題に焦点を当てた。その結果、保険会社は特別ファンドに対して非常に異質な投資方針を有しており、その中には特定な要件を満たすために開発されたものもあることが判明した。場合によっては、保険会社はより高いリターンを達成するために、より複雑でリスクの高い投資を行っていた。

2023 年、BaFin は会社に対して、そのような投資に伴うリスクを自ら評価しなければならない、外部の専門家だけに頼るべきではないことを明確にした。

<sup>5</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl\\_rs\\_0923\\_gl\\_va.html;jsessionid=B3E96FBE6FE2930CB32B93DACAFA00CA6.internet002](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl_rs_0923_gl_va.html;jsessionid=B3E96FBE6FE2930CB32B93DACAFA00CA6.internet002)

<sup>6</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl\\_rs\\_1023\\_ar\\_va.html;jsessionid=C2356379F8B99D10F665EBC4FD9803EF.internet001](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl_rs_1023_ar_va.html;jsessionid=C2356379F8B99D10F665EBC4FD9803EF.internet001)

<sup>7</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl\\_rs\\_1123\\_vp\\_va.html;jsessionid=0DD627832EFFF8F9A5057CEC3C417044.internet001](https://www.bafin.de/SharedDocs/Downloads/DE/Rundschreiben/dl_rs_1123_vp_va.html;jsessionid=0DD627832EFFF8F9A5057CEC3C417044.internet001)

<sup>8</sup> [https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Aufsichtsmitteilung/2023/dl\\_2023\\_07\\_04\\_Aufsichtsmitteilung\\_Gruppenversicherungen.html;jsessionid=D6D29AC856FA39359BA06648783BA91D.internet002](https://www.bafin.de/SharedDocs/Veroeffentlichungen/DE/Aufsichtsmitteilung/2023/dl_2023_07_04_Aufsichtsmitteilung_Gruppenversicherungen.html;jsessionid=D6D29AC856FA39359BA06648783BA91D.internet002)

## 2. EIOPA が保険会社向けの欧州全体のストレステストを開始

EIOPA は、保険会社向けの欧州全体のストレステストを開始したが、BaFin は、ドイツの参加者の結果を検証し、継続的な監督においてそれらを考慮に入れる。ストレステストの目的は、保険セクターがネガティブな展開に対してどの程度レジリエンスがあるかを評価することにあるが、今回のテストでは、インフレ率の上昇と金利の上昇というシナリオが特に注目されている。

欧州の大手保険グループに焦点が当てられており、欧州全体では、46 の保険グループと 2 つの保険会社がメインモジュールである「資本コンポーネント」に参加する。ドイツからは、Allianz、Munich Re、HDI／Talanx、R+V、Debeca、Versicherungskammer Bayern、Viridium の 7 つの保険グループが参加する。2021 年のストレステストと同様に、別のモジュールである「流動性コンポーネント」では、保険グループの個々の保険会社が流動性ストレスにさらされる。

ドイツの参加保険グループは、2024 年 8 月 8 日までに報告書を BaFin に提出する必要がある。その後、BaFin と EIOPA は、多段階のプロセスでデータを調査し、EIOPA が 2024 年 12 月に結果を公表する予定となっている。

## 4—保険会社と年金基金の業績状況

BaFin の Annual Report の「II. 企業の監督」の「2. 保険会社及び年金基金」等における記述に基づく、2023 年の保険会社と年金基金の業績状況は、以下の通りとなっている。

### 1 | 全体の業績

2023 年の保険会社と年金基金の全体の業績状況は、以下の図表の通りとなっている。

|           | 被監督<br>会社数 | 保険料・拠出金総額<br>(十億ユーロ) |       |        | 投資残高<br>(十億ユーロ) |         |        | SCRカバレッジ<br>(%) |       |        |
|-----------|------------|----------------------|-------|--------|-----------------|---------|--------|-----------------|-------|--------|
|           |            | 2023年                | 2022年 | 増加率(%) | 2023年           | 2022年   | 増加率(%) | 2023年           | 2022年 | 増加率(%) |
| 生命保険会社    | 82         | 86.6                 | 90.5  | ▲4.3   | 1,003.7         | 1,035.2 | ▲3.0   | 479.4           | 520.7 | ▲7.9   |
| 損害保険会社    | 199        | 99.8                 | 94.5  | 5.6    | 227.6           | 205.2   | 10.9   | 280             | 279.8 | 0.1    |
| 民間医療保険会社  | 46         | 48.4                 | 46.9  | 3.2    | 364.8           | 345.8   | 5.5    | 430.7           | 458.4 | ▲6.0   |
| 再保険会社     | 29         | 92                   | 94.8  | 3      | 399.7           | 386.6   | 3.4    | 325.1           | 336.6 | 3.5    |
| ペンションカッセン | 122        | 6.5                  | 6.6   | ▲1.5   | 206             | 200.2   | 2.9    | 147.7           | 144.6 | 2.1    |
| ペンションファンド | 35         | 3.3                  | 4.1   | ▲19.5  | 58.7            | 54.7    | 7.3    | 194.7           | 197.7 | ▲1.5   |

1)2023年は、中間報告と予想に基づく暫定値。2)ドイツ商法に基づく帳簿価格。3)生命保険会社については、ユニットリンク型保険契約を含む。

(出典) BaFin 「2023 Jahresbericht」

### 2 | 生命保険会社

BaFin は、ここ数年の低金利環境にもかかわらず、生命保険会社の状況は過去においてすでに強固であると評価していたが、最近の金利の上昇は、生命保険会社のソルベンシー II に基づく KPIs（重要業績指標）とリスク負担能力をさらに改善させた。新規投資と再投資の両方で、収益創出の機会が改善した。BaFin は、歴史的な低金利の時代には、主に生命保険会社のリスク負担能力に注目し、生命保険会社が義務を果たせるかどうかを監視していたが、2022 年と 2023 年には、金利上昇から生じるリスクにより一層焦点を当てるようになった。



2023 年の ZZR（追加責任準備金）算定の基準金利は、前年度同様 1.57%であったが、ポートフォリオの変化により、準備金は一桁の十億ユーロ台の範囲で放出された。放出された資金は、より多くの配当という形で、最終的には保険契約者に利益をもたらす。

一部の生命保険会社はすでに 2023 年の配当金拠出額を緩やかに引き上げていたが、この傾向は 2024 年の剰余金報告でも続く。したがって、保険契約者も新規投資や再投資による高いリターンを享受することになる。

2023 年には、前年と同様、全ての生命保険会社が十分な SCR カバレッジを示すことができた。金利上昇の結果、カバー率は大幅に上昇し、十分な SCR カバレッジを示すためのソルベンシー II の経過措置はますます重要でなくなっている。2023 年の段階では、経過措置に依存していたのは 1 社のみであった。

### 3 | 損害保険会社

損害保険会社の 2023 年の特徴は、インフレ率が、前年に比べて低下したものの、長期平均を上回る水準で推移したことにある。損害保険会社にとって重要な保険金請求インフレ率は、欧州中央銀行（ECB）が発表する一般的なインフレ率よりも高い傾向にあった。

高水準のインフレは、自動車保険（自動車第三者賠償責任保険、その他の自動車保険）、家財・住宅保険、賠償責任保険に特に影響を与えている。これらの保険種目は損害保険の保険料総額の大きな割合を占めているが、2023 年の平均保険料はこれらのクラスで上昇した。しかし、特に自動車保険では、保険会社は保険料率の上昇分を、タイムラグを伴ってしか保険契約者に転嫁できなかった。

2023 年には損害保険市場全体で収益性が低下し、特に重要な自動車保険分野で低下した。これは特に、2023 年中に 100%の大台を大きく上回った正味コンバインド・レシオの急上昇に顕著に表れている。高インフレに加え、一部で保険料の調整が不十分であったこと、パンデミック後の交通量が正常化したこと、経済状況が悪化したことなどが収益性低下の原因であった。

ソルベンシーに関しては、損害保険会社は業界平均で比較的高い保険金請求インフレ率にうまく対処することができ、関連する SCR カバレッジは 2023 年にはわずかしき変化しなかった。

### 4 | 再保険会社

再保険セクターでは、2023 年も自動車保険と自然災害保険の保険料が大幅に上昇した。自動車保険では予備部品や修理費用の上昇が目立ち、自然災害の頻発と建設費の上昇により、自然災害損失が増加した。BaFin は、監督下の再保険会社とこれらの動向について詳細に協議した。BaFin は、再保険価格の高騰は今後も続くと予想している。

金利の上昇により、再保険セクターが 2023 年に資本市場で調達した新規資本は減少した。とりわけ、再保険会社が発行したオールタナティブ・カタストロフィ・ボンドは、低金利時代ほどには投資家に注目されなくなった。これは、再保険サービスに対する需要は以前よりも高まったが、再保険会社がこの追加需要を限定的にしかカバーできなかったことを意味している。従って、既存の再保険会社は交渉において有利な立場にあり、保険料の大幅な値上げを課すことができる。火災保険でもさらなる保険料の引き上げが想定されている。

### 5 | 医療保険会社

2023 年の金利の上昇は、新規投資や再投資の収益機会を改善することで、民間医療保険会社の業績に最も大きな影響を与えた。

とはいえ、資本投資における隠れた準備金（含み益）は減少しており、多くの医療保険会社が隠れた負債（含み損）を負っている。2023 年 9 月 30 日時点の BaFin の予測が示すように、医療保険会社は中期的にも金利上昇に対応することが可能である。

同時に、保険数理金利をすでに引き上げている医療保険会社もある。これは、金利上昇を価格に織り込み、保険料の上昇を緩和できたことを示している。インフレ率の上昇や COVID-19 のパンデミック時からの一定のキャッチアップ効果にもかかわらず、保険給付とコストは今のところ大きく上昇していない。

BaFin の年間セクター分析によると、2024 年の総合医療保険の保険料調整は、少なくとも 1 つの料率モジュールで約 73%、主要料率モジュールで約 61%の保険契約者に影響を与えた。調整率は平均 6.3%だが、保険料が下がる保険契約者もいる。保険料の値上げを抑えるため、医療保険会社は保険料の払戻し準備金から合計約 22 億 6,000 万ユーロを活用している。

## 6 | ペンションカッセンとペンションファンド<sup>9</sup>

### ペンションカッセン

近年の低金利環境の影響を特に受けていたペンションカッセンは、新規投資と再投資の収益機会が改善したため、金利上昇によって救済された。同時に、隠れた準備金は消滅して、その多くが隠れた負債を抱えた。

2023 年 9 月 30 日時点の BaFin の予測では、シナリオによっては一部のペンションカッセンは依然として緊迫した状況にあるものの、業界全体としては状況が改善している。監督強化の対象となるペンションカッセンの数は、2023 年には約 30 から 20 未満に減少した。予測によれば、2023 年 12 月 31 日時点で、3 つのペンションカッセンがソルベンシー要件を満たすことができなかった。

### ペンションファンド

BaFin の監督下にある 34 のペンションファンドは、2023 年 9 月 30 日現在、予測の 4 つのシナリオの経済的影響に耐えることができた。金利の上昇により、ペンションファンド自身が債務履行のリスクを負うことになる保険ベースの事業には隠れた負債が生じた。全てのペンションファンドは 2023 会計年度及びその後の 4 会計年度分に向けて十分な自己資本を有している。監督法で要求される自己資本の水準は、年金基金の約 3 分の 2 で最低資本要件（株式会社は 300 万ユーロ、共済年金基金は 225 万ユーロ）となっている。

## 5—生命保険業界の業績状況

ここでは、GDV が 2024 年 7 月 24 日に公表した資料<sup>10</sup>に基づいて、2023 年の生命保険業界の業

<sup>9</sup> ペンションカッセン（Pensionskassen）とペンションファンド（年金基金）（Pensionfonds）については、保険年金フォーカス「[ドイツの生命保険監督を巡る動向\(1\)－BaFin の 2021 年 Annual Report より、スポットライトからの抜粋と関連情報](#)」（2022.9.1）を参照していただきたい。

<sup>10</sup> <https://www.gdv.de/gdv/statistik>  
「Die deutsche Lebensversicherung in Zahlen 2024」

績状況を報告する<sup>11</sup>。

## 1 | 全体概要（生命保険会社、ペンションカッセン及びペンションファンド）

2023 年は、生命保険会社、ペンションカッセン及びペンションファンドにとって容易な年ではなかった。インフレ率が年内に再び低下したとはいえ、不確実性は依然として高く、新型コロナウイルスの大流行とエネルギー危機を受けて経済成長は低迷した。このような情勢は、企業型・個人型の退職年金制度にも影響を及ぼした。4,600 万件以上の年金保険を含む 8,500 万件以上の契約により、保険業界はドイツにおける老齢保障の不可欠な一部であり続けている。

生命保険、ペンションカッセン及びペンションファンドは、2023 年の保険料収入が 5.0%減の 922 億ユーロとなった。また、金利動向により、一時払保険料は 15.7%減の 258 億ユーロとなった。平準払保険料は横ばいの 663 億ユーロだった。2023 年の支払保険金は、8.7%増の 990 億ユーロと大幅に増加した。

貯蓄者の経済的余裕は主にインフレのため限られていたにもかかわらず、殆どの人は年金契約を継続した。解約率は 2022 年の 2.51%から 2023 年には 2.56%と若干上昇したが、依然として低い水準にある。

2023 年末時点で、業界のポートフォリオには、対前年で 2.3%減少したものの、まだ約 1,000 万件的リースター契約があった。しかし、人口に占めるその普及率は全体的に減少しており、一般情勢の悪化により、生命保険会社からの新契約は 2023 年に 67.2%減少した。

## 2 | 生命保険

さらに、以下のように説明されている（上記と重複する部分もあるが、再掲しておく）。

- ・総収入保険料は 922 億ユーロで 5.0%減少した。
- ・新契約数は 450 万件で 0.1%微増した。
- ・新契約保険料評価額（年間保険料に保険期間を乗じた額に相当）は 1,782 億ユーロとなり、前年の 1,744 億ユーロに対して、2.2%増加した。平準払の年換算保険料（APE）が 4.5%増加して 65 億ユーロとなった一方で、一時払保険料は 16.3%減少して 255 億ユーロとなり、この結果として、全体の年換算保険料は 91 億ユーロで、前年の 93 億ユーロに対して、2.3%減少した。
- ・新契約による保険金額は、3,110 億ユーロから約 3,230 億ユーロに 3.7%増加した。
- ・2023 年末の契約件数は 8,550 万で、年初の 8,590 万に対して、0.5%減少した。
- ・給付金支払額は 990 億ユーロで、前年の 911 億ユーロに対して、8.7%と大幅に増加した。
- ・2023 年の投資ポートフォリオ（貸借対照表価額）は、前年の 1 兆 930 億ユーロに対して、1.0%減少して、1 兆 810 億ユーロとなった。さらに、ユニットリンク保険の投資が、前年の 1,550 億ユーロに対して、17.1%増加して、約 1,820 億ユーロとなった。新規投資は、前年の 1,990 億ユーロに対して、35.1%減少して、1,290 億ユーロとなった。なお、ペンションファンドからの値はここには含まれていない。

---

<sup>11</sup> BaFin と GDV の数値は、必ずしもベースが一致していない。



## 生命保険会社、ペンションカッセン、ペンションファンドの業績概要 <sup>(注1)</sup>

|                        |                        | 2023年     | 進展率    | 2022年     |
|------------------------|------------------------|-----------|--------|-----------|
| 総収入保険料 <sup>(注2)</sup> |                        | 922億ユーロ   | ▲5.0%  | 970億ユーロ   |
| 保有契約数                  |                        | 8,550万件   | ▲0.5%  | 8,590万件   |
| 新契約                    | 契約数                    | 450万件     | 0.1%   | 450万件     |
|                        | 保険料評価額 <sup>(注3)</sup> | 1,782億ユーロ | 2.2%   | 1,744億ユーロ |
|                        | 平準払                    | 1,527億ユーロ | 6.1%   | 1,440億ユーロ |
|                        | 一時払保険料                 | 255億ユーロ   | ▲16.3% | 304億ユーロ   |
|                        | 年換算保険料相当額 (APE)        | 91億ユーロ    | ▲2.3%  | 93億ユーロ    |
|                        | 保険金額                   | 3,231億ユーロ | 3.7%   | 3,115億ユーロ |

(注1) 17のペンションカッセンと14のペンションファンド（主に保険会社が設立）が含まれている。

(注2) RfB（配当準備金）からの分は含まれない。

(注3) 「保険料評価額」は、年間保険料に保険期間を乗じた額に相当するもの。

(出典) GDV「Die deutsche Lebensversicherung in Zahlen 2024」に基づいて、筆者作成。

### 3 | 新契約の商品別状況

2023 年度の新契約においては、年金及び年金保険が引き続き最大のウェイトを占め、次いで就業不能保険となった<sup>12</sup>。

- ・年金及び年金保険：2,884 百万ユーロ（保険料のシェア 71.2%、対前年 2.2%増加）
- ・その内訳としては、保証付混合型商品として加入された年金及び年金保険：1,784 百万ユーロ（シェア 44.0%、対前年 3.9%増加）、伝統的な年金保険：241 百万ユーロ（シェア 6.0%、対前年 7.8%減少）、ユニットリンク型年金保険：859 百万ユーロ（シェア 21.2%、対前年 2.0%増加）
- ・就業不能保険：459 百万ユーロ（シェア 11.3%、対前年 11.7%増加）
- ・リスク保険（定期保険等）：187 百万ユーロ（シェア 4.6%、対前年 7.4%減少）
- ・養老保険（伝統的）：157 百万ユーロ（シェア 3.9%、対前年 8.2%増加）

#### 生命保険：2023年の新契約（定期的保険料支払）の状況

|                         | 契約数<br>(件) | シェア<br>(%) | 保険料<br>(千ユーロ) | シェア<br>(%) | 保険金額<br>(百万ユーロ) | シェア<br>(%) | 進展率<br>(%) |
|-------------------------|------------|------------|---------------|------------|-----------------|------------|------------|
| 年金及び年金保険                | 1,728,399  | 53.7       | 2,884,301     | 71.2       | 88,492.7        | 30.8       | + 6,5      |
| 伝統的保険                   | 152,097    | 4.7        | 241,188       | 6.0        | 8,869.1         | 3.1        | + 7,0      |
| ユニットリンク型保険              | 530,702    | 16.6       | 859,092       | 21.2       | 27,882.5        | 9.7        | + 6,3      |
| 保証付混合型商品                | 1,045,600  | 32.5       | 1,784,021     | 44.0       | 51,741.1        | 18.0       | + 6,5      |
| 養老保険（伝統的）               | 303,958    | 9.5        | 157,372       | 3.9        | 7,262.2         | 2.5        | ▲4.1       |
| 養老保険（ユニットリンク型）          | 68,798     | 2.1        | 164,068       | 4.0        | 4,231.2         | 1.5        | + 24,8     |
| 就業不能保険                  | 466,621    | 14.5       | 459,418       | 11.3       | 95,526.6        | 33.3       | + 14,9     |
| 介護年金保険                  | 5,499      | 0.2        | 5,303         | 0.1        | 1,223.7         | 0.4        | + 29,0     |
| リスク保険（定期保険等）            | 321,333    | 10.0       | 186,582       | 4.6        | 65,833.2        | 22.9       | ▲14.4      |
| 残余債務保険及び無配当生命保険         | 132,062    | 4.1        | 55,199        | 1.4        | 1,852.6         | 0.6        | + 81,5     |
| その他の生命保険 <sup>(注)</sup> | 189,619    | 5.9        | 137,963       | 3.4        | 22,821.2        | 7.0        | + 41,4     |
| 合 計                     | 3,216,289  | 100.0      | 4,051,206     | 100.0      | 287,243.4       | 100.0      | + 5,5      |

(注) 資本化取引（保険貯蓄）、住宅貯蓄リスク保険、その他の個人及び団体保険を含む。

(出典) GDV「Die deutsche Lebensversicherung in Zahlen 2024」に基づいて、筆者作成。

<sup>12</sup> ここでの「新契約」としては、GDVの資料の「Eingelöste Versicherungsscheine」の数値を使用している。

以下の図表は、新契約の商品別の件数の内訳の推移を示している。

年金及び年金保険における伝統的保険のシェアが低下し、代わりに保証付混合型商品のウェイトが大きく増加してきている。また、養老保険については、伝統的及びユニットリンク型ともそのシェアが低下してきている。一方で、就業不能保険のシェアが着実に増加してきている。

#### 生命保険：新契約の推移

|                                | 2000年      |            | 2010年      |            | 2020年      |            | 2023年      |            |
|--------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|                                | 件数<br>(千件) | シェア<br>(%) | 件数<br>(千件) | シェア<br>(%) | 件数<br>(千件) | シェア<br>(%) | 件数<br>(千件) | シェア<br>(%) |
| 年金及び年金保険                       | 1,199.8    | 16.4       | 3,042.3    | 49.6       | 2,179.0    | 46.9       | 2,040.6    | 46.1       |
| 伝統的保険 <sup>(注1)</sup>          | 1,199.8    | 16.4       | 2,060.3    | 33.6       | 349.4      | 7.5        | 258.7      | 5.9        |
| ユニットリンク型保険                     | —          | —          | 982.0      | 16.0       | 317.4      | 6.8        | 621.8      | 14.1       |
| 保証付混合型商品                       | —          | —          | —          | —          | 1,512.2    | 32.5       | 1,160.1    | 26.2       |
| 養老保険（伝統的）                      | 1,954.9    | 26.8       | 742.1      | 12.1       | 392.3      | 8.4        | 325.3      | 7.4        |
| 養老保険（ユニットリンク型） <sup>(注2)</sup> | 1,281.7    | 17.6       | 156.7      | 2.6        | 48.5       | 1.0        | 81.2       | 1.8        |
| 就業不能保険                         | 184.4      | 2.5        | 403.3      | 6.6        | 451.0      | 9.7        | 466.6      | 10.6       |
| 介護年金保険                         | 0.1        | 0.0        | 14.0       | 0.2        | 8.8        | 0.2        | 5.8        | 0.1        |
| リスク保険（定期保険等）                   | 1,193.7    | 16.3       | 945.8      | 15.4       | 463.4      | 10.0       | 322.3      | 7.3        |
| 残余債務保険及び無配当生命保険                | 1,486.1    | 20.4       | 743.2      | 12.1       | 871.5      | 18.7       | 886.7      | 20.1       |
| その他の生命保険                       | 1.2        | 0.0        | 83.3       | 1.4        | 235.1      | 5.1        | 293.5      | 6.6        |
| 合 計                            | 7,301.8    | 100.0      | 6,130.8    | 100.0      | 4,649.5    | 100.0      | 4,422.0    | 100.0      |

（注1）2016年までは保証付混合型商品を含む。

（注2）2000年まではユニットリンク型年金保険を含む。

（出典）GDV「Die deutsche Lebensversicherung in Zahlen 2024」に基づいて、筆者作成。

## 6—まとめ

以上、今回のレポートでは、BaFin の 2023 年の Annual Report の「I. スポットライト」の「2—1. リスク分類と（その他の）検査」及び「II. 企業の監督」の「2. 保険会社及び年金基金」等及び GDV（ドイツ保険協会）の公表資料等に基づいて、ドイツの生命保険会社等の監督及び業績等の状況について報告してきた。

ドイツの生命保険会社は、長引く低金利環境下で、これまで ZZR の積立や新契約の保証利率の引き下げ、さらには保障性商品や固定保証利率を有さない商品へのシフトを進めることにより、健全性維持のために着実な対応を進めてきた。ただし、2022 年以降の金利の急激な反転により、最近では資産の含み損の発生や解約の増加懸念等の新たなリスクへの対応が求められる状況になってきていた。金利の上昇は基本的には生命保険会社にとって望ましいものと考えられており、これまでのところ、金利上昇に伴う流動性リスク等の懸念事項についても大きな問題とはなっていないようだ。ただし、生命保険業界を巡る状況については、各種の課題への対応と併せて、引き続き注目されるところとなっている。

ドイツの生命保険会社を巡る状況に関しては、日本の生命保険業界関係者にとっても極めて関心の高い事項であることから、その監督や業績等を巡る動向については、今後とも引き続き注視していく

こととしたい。

以 上